

5 活用にあたって
【マトリクス】

身に付けさせたい国語力とそれを育成するための主な活動

言語活動	話す	書く	読む
考える力	自分の考えを明確にし、論議に伝える。 ・相手の意見を的確に把握して自分の考えを整理する。	・根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書く。 ・事実や情報などを明らかにした論議的な文章を書く。	・論議的に分析して読む。 ・評価しながら読む。 ・目的に応じて解釈して読む。 ・課題に即して読む。
感じる力	心に感じたことの中心を明らかにして話す。 ・話し手に共感し、意外の点にも感じ取るように聞く。	・感じたことの中心を明らかにして書く。 ・読み手の感じ方を考えて書く。	・心情を理解する。 ・文章表現を読み味わう。
想像する力	相手の立場や状況を感じ取りながら話す。 ・話し手の内面について、イメージを描きながら聞く。	・想像力を働かして像化して書く。 ・構成や展開を考えながらイメージするものを書く。	・場面や状況を感じ取りながら読む。 ・相手の立場や状況を感じ取りながら読む。
表す力	相手や目的などに応じて、伝えたいことを的確に話したり、筋立てて話したりする。	・目的や場面などに応じて、自分の思いを正確に伝えるよう工夫して書く。	・筋道のある表現の仕方を選ぶという目的意識をもって読む。

【指導例】

【活用ポイント1】

紙面初めの濃い緑色のゾーンには、学年や教科、マトリクス「考える力」×「書く」等のようにセルに対応した指導例であること、育成したい国語力の内容を示しました。

【活用ポイント2】

上・右のインデックスはそれぞれ下の内容を示しています。
・上部インデックス：言語活動と関連する国語力
・右側インデックス：当該学年と教科

【活用ポイント3】

白枠の中は、教科等の本来のねらいや内容を示しています。

【発達段階を意識する】

小学校低学年から中学校後期まで常に発達段階を意識することで、児童生徒一人一人の「育ち」を意識し、方向性をもった指導が可能となります。また、一人一人の児童生徒の「育ち」を的確にとらえ、個に応じた指導をすることも可能となります。

【考える力】

分析力や論理的構築力などを含む論理的思考力です。本書では、「気付く」「疑問をもつ」「つなげる」「くらべる」「理由付ける」「推論する」の6つの力から例示しました。

【感じる力】

相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。本書では、感じ取る・感動するの2つの力から例示しました。

【想像する力】

経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。本書では、「思い描く」「察する」「予想・予測する」の3つの力で例示しました。

【表す力】

考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。

【育ちのキーワード】

各発達段階で、「国語力を貫くもの」として、「育ちのキーワード」を挙げるができます。小学校中学年では「中心点」「共通点・相違点」や「筋道立て」です。例えば、中学年では、「中心点」を明らかにしながら書いたり読んだりすることが必要です。常に、このキーワードに留意しながら、学習活動を展開することが必要です。

【マトリクス】『書く』

	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校前期	中学校後期
考える力	身近な事柄について意見を述べ、意見を述べたことについて自分の考えを述べ、自分の考えを整理する。	自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。	自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。	自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。	自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。
感じる力	相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。	相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。	相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。	相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。	相手の気持ちや文学的な文章の内容・表現、自然や人間に関する事実などを感じ取ったり、感動したりできる情緒力です。
想像する力	経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。	経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。	経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。	経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。	経験していない事柄や現実には存在していない事柄などを推し量り、頭の中でそのイメージを自由に思い描くことのできる力です。
表す力	考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。	考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。	考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。	考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。	考え、感じ、想像したことを表すために必要な表現力として例示しました。

小学校 3年 理科

「あなたかさと太陽の光」

本時のねらい
本時の光が当たっている地面と当たっていない地面の温度のちがいを観察し、その理由を説明し、その理由を説明し、その理由を説明する。

本時の学び
・自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。
・自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。

導入
○日なたの地面と日かげの地面にはどのようなちがいがあろうか予想する。

展開
○予想を確かめるための方法を考え、ノートに文と図で表す。
○方法について友だちと交流する場を設定する。
○自分の考えを整理し、自分の考えを整理し、自分の考えを整理する。

まとめ
○日なたと日かげの地面のちがいの理由を説明し、その理由を説明する。

国語力育成の視点
3年生の理科では、問題解決的な力として「比較力」を重点的に付けます。そのために、実験・観察をするときに、比べるものの相違点と共通点を意識させます。ノートに記録する際、相違点を中心に文章と図で表現させましょう。
実験・観察は、そのこと自体が目的ではありません。子ども達が不思議な、裏でみたいと思うことに対して、なぜそれが起こるのか理由を考え、そのとおりか否かを確かめるためにやるものです。実験・観察前に児童一人一人に理由を付けて予想を立てさせたり、児童の発想を国や文で明確にした実験・観察方法を盛り込ませたりすることで、考える力を高め、本時の目標に達することができます。

教科等の例
＜材料＞
温度計、半紙、バク辛切ったもの
＜教材作成＞
小学校理科実験基本マニュアル
<http://www.kokoro-benelb/n-center/ikar-ikken/3nen-ikken/3nen-ikken-funbun.htm>

児童の活動例
＜予想例＞「日なたの地面と日かげの地面のちがいはなんだろうか」
【予想】日なたの地面はあたたかくて、日かげの地面は冷たいだろう。
【理由】日なたはあたたかくて、日かげは冷たいから地面も同じだろう。
【確かめる方法】日なたの地面と日かげの地面を、手でさわったり、はだしになってあたたかさを比べる。温度計をはかる。
【予想】日なたの地面はあたたかくて、日かげの地面は冷たいだろう。
【理由】日なたはあたたかくて、日かげは冷たいから地面も同じだろう。
【確かめる方法】日なたの地面と日かげの地面に、デジタル温度計をはかる。温度計をはかる。

【活用ポイント4】

黄色の吹き出しには、本時の流れの中で、特に育成したい国語力の視点を具体的に提案しました。

国語力育成の視点
視点

【活用ポイント5】

緑色のコーナーは、ワークシートやノートの例、児童生徒の作品や参考資料等を提案しました。

ワークシート
教材等の例
児童生徒の活動例

資料の作成に当たっては、京の子ども、夢・未来校国語科継続校及び国語力向上拠点校の実践、その他の京都府内の先進的な実践を基にしました。